

3. 北関東（地域別調査機関：（財）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（店長）	・10月は食欲の秋ということで、今現在売上を引っ張っている弁当やデザートなどの更なる販売が期待できるほか、ドライブや行楽、観光需要も期待できる。11月は歳暮やワイン、12月はクリスマスケーキや年賀状とはっきり目標をもって頑張れる月がやってくるので、しっかり準備をしていけば数字が作れる。
		通信会社（営業担当）	・通信インフラ関係の成長が期待され、IPでの地上デジタル配信や携帯電話受信も可能になるので、今後も期待される。
	やや良くなる	百貨店（売場主任）	・今年はウォームビズの提案で、秋冬におしゃれで暖かい服装が流行する兆しである。当店でもウォームビズを全面に展開するが、温暖化ばかりではなく、おしゃれな提案をしていきたい。10月は大きな催事があるので相当の動員がある。
		百貨店（販売促進担当）	・豪雨、台風、地震と、天災によって来客数が減少し、売上が減少した前年と比べると、今年は売上増が見込める状況である。
		衣料品専門店（販売担当）	・1年ほど前から郊外や駅前に大型ショッピングセンターなどのオープンが続き、客の流出が続いている。商店街の通行量そのものは今も減っているが、天候に合わせて徐々にファミリー層など、店のターゲットになるような客層が増えてきているようなので、今後は若干上向きになる。
		家電量販店（店長）	・薄型テレビの価格が急激に下がっているため、年末には需要の波が押し寄せる。原油の高騰で石油暖房から電気暖房へのシフトが加速し、高単価であるエアコンが暖房としてより強く認知されそうである。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車の発売があることや、今後冬の用品が売れるので、多少は良くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・自動車の商談をするなかで、オプション等にお金をかけ、よりグレードアップ仕様にする客が増えてきている。
		その他専門店〔携帯電話〕（営業担当）	・ボーナス商戦に入ることと、当地の主要産業である果樹生産が台風の影響も少なく好調であることから、やや良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・予約状況が若干上向いている。
		タクシー（経営者）	・昼も夜も客の動きが良くなっているため、この先も良くなる。
		遊園地（職員）	・愛知万博が終わり、通常の利用者が戻ってくる。
	住宅販売会社（経営者）	・マンション、戸建て共に新築ラッシュで、それなりに需要があり、数字が伸びている。	
	変わらない	百貨店（営業担当）	・一部ウォームビズ関連で売上が増加するところもあるかもしれないが、今の売上、来客数の状況をみていると、極端に上向いていくということはない。
		スーパー（統括）	・団塊世代の消費の動きが旅行志向、健康志向、本物志向という形になって表れ始めている。一方、生活防衛型の価格訴求商品の動きも活発でウエイトも大きい。今後は価値訴求型の商品の提案、提供方法で差が出てくる。
		コンビニ（経営者）	・中華まんやおでんなどは伸びるが、全体的には変わらない。
		家電量販店（営業担当）	・イベントや話題性の商品がなく、売上アップは困難である。何とか前年キープを目指す策を考えている。
		乗用車販売店（営業担当）	・決算期の来場者が少なく、これから先の来場者数に不安がある。
		一般レストラン（業務担当）	・10～11月の宴会予約は前年並みであるが、結婚披露宴予約はゼロである。通信販売部門の売上は前年比で50%増加しているものの、元の実績が小さいので会社全体への貢献度は小さい。
観光型ホテル（スタッフ）		・10月はそれなりの動きがあり多少期待が持てるが、その後の入込はかなり悪い。紅葉の時期から冬のシーズン到来までの間をいかに埋めきれぬかで変わってくる。	
旅行代理店（従業員）	・直接客の料金に反映される燃油サーチャージなど、原油価格高騰の影響が出てくる。		

	タクシー運転手	・今月は7、8月と比べて夜飲みに行く客が非常に少なく、売上が前月と全く違うほど減っている。昼間は工業団地や流通団地に営業に来る客がいるので何とか動いているが、夜と照らし合わせてみると先行きが不安である。	
	観光名所（職員）	・本格的な紅葉シーズンに入るが、この夏の入込状況からすると来客数は例年を上回る。一方、レストラン、ホテル関係は自分の別荘で食事をする人が多いことから、一部の人気店を除き、全般的に例年を下回る見込みである。	
	ゴルフ場（支配人）	・周辺コースと当コースとの料金格差が平均化されることや、この秋、天候の安定が予想されること、客単価も前月同様となる見込みであることから、安定的に進む。	
	その他レジャー施設 [アミューズメント] （職員）	・リラクゼーションに対するニーズは増えつつあるが、この分野への新規参入も増えてきていることから、客の取り合いになってくるのでその辺のバランスがどうかというところである。	
	設計事務所（所長）	・今までは多少情報があったが、今月はなくなってきている。同業者の話を聞いてもなかなかこれから伸びていくような材料はない。まだ当地域の景気は停滞している。	
	設計事務所（所長）	・大きな変化はないが、受注件数がかなり良かったのでしばらく安定した仕事ができる。	
	住宅販売会社（経営者）	・8月の路線価に続き、9月の基準地価が下落した。全国的に下落率が減少しているなか、当県の下落率は前年並みで、下げ止まっていない。マンションは建設戸数が過去最高だが戸建ての販売が低迷している。地価安定は再来年との見方が強い。	
やや悪くなる	百貨店（店長）	・町村合併という不安材料により買物が減る上、郊外大型店がリニューアルオープンするため、悪くなる。	
	スーパー（経営者）	・競合店出店により、売上、利益の確保が非常に厳しくなる。あらゆる経費の見直しが要求されてきている。	
	コンビニ（店長）	・近隣商業圏内の年中無休24時間営業の小型スーパーの影響は当初予想よりもかなり大きく、取扱カテゴリーすべてが前年同月比でかなりのマイナスとなっている。今後マイナス幅は更に大きくなるのではないかと心配している。	
	衣料品専門店（店長）	・原油高の影響で材料費及び燃料費がじわじわと高くなってきているために、買い控えや旅行の自粛が少しずつ増える。	
	衣料品専門店（統括）	・これから2～3か月後は前年同期比ではそんなに変わらないが、歳末商戦や商業的なイベントがあっても、当店の最盛期である今の時期に見合う売上にはならない。	
	旅行代理店（従業員）	・業績の良い会社の旅行は年々派手になっていくが、大半の会社は余力がなく、旅行どころではないといった感じである。秋の旅行シーズンを迎えているが、売上は前年より悪化しそうである。	
	美容室（経営者）	・このところ同業者の開設が増えているので、売上は伸びない。まして、連休などはレジャーで遠出をするなど、美容にお金が回らなくなる。10月から社会保険料も増えるので、ますます財布のひもは固くなる。	
	設計事務所（所長）	・当事務所の仕事については3か月後も何とか良いと見込んでいるが、建設業全般で考えると、着工件数は減る方向にあるので、やはり厳しい。	
悪くなる	コンビニ（店長）	・大型店がまた進出するという話があるので、これから悪くなる。	
	タクシー運転手	・タクシーの利用客は極めて少なく、これ以上増えそうもない。	
企業 動向 関連	良くなる	化学工業（経営者）	・2、3か月先までは、目一杯受注が入っており、人員は熟練OBを確保し、資材置場等を空けて原材料が入ってくるのを待っている状態である。
	やや良くなる	食料品製造業（営業統括）	・7月に開かれた国産ワインコンクールの影響もあり、大手、中小メーカーとも、栽培から醸造まで国産主体のムードが出てきている。徐々にはあるが、国産100%の商品が認知されつつある。現在は焼酎ブームだが、ワインブームが再びくる。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・製品単価の問い合わせや、見積依頼がぼつぼつきているので、期待している。
		一般機械器具製造業（生産管理担当）	・四輪駆動車向け部品の冬場の新規立ち上げ、増産計画に対応するために、この秋に設備を増強しており、その効果が大きく出てくることを期待している。
		その他製造業[宝石・貴金属]（経営者）	・宝飾の展示会で高額品が売れている。過去の例からみても株が上がれば高額品が売れることから、期待は大きい。

		金融業（経営企画担当）	・原油の高騰が企業側の当初の想定を超えるレベルになってきており、徐々に影響が出始めている企業もあるようだが、製造業ではそれ以上に受注増が見込まれるため、影響は最小限に抑えられそうである。
変わらない		金属製品製造業（経営者）	・このところ原油の高騰もあるが、鋼材、高炉関係の鉄板類も半年前のように毎月値上げ要請が来ることもなくなっており、高値ではあるが安定してきている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・受注金額の内容の悪さと、原材料の値上がりは今でも大変重荷である。年内の仕事量はある程度確保しているが、これから先、原油の高騰がどれくらい影響してくるか分からないので心配である。
		精密機械器具製造業（経営者）	・積極的な取引先もあるが、先行き不透明なところも出ている。今のところは変わらない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・今までは相当忙しかったがこの1～2か月は大分落ち着いてきて、土日出勤や深夜残業をするほど忙しくはなくなっている。今後はそんなに忙しくやるような仕事はなく、反動で普通かやや落ち目となる。
		広告代理店（営業担当）	・11月にオープンする大型ショッピングセンターへの期待はあるが、既存物販店の年末商戦への宣伝広告費が現状伸びていないので変わらない。
やや悪くなる		食料品製造業（製造担当）	・原油価格の高騰はまだ続き、原材料高騰がこのまま続くようであれば大豆関係の食品業界は非常に危ない状態になる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・10月末まで現状維持であるが、11月より仕事量が10%減少する。
		電気機械器具製造業（経営者）	・10月は前年並みの受注量を確保できたが、11月は分からない。この2～3か月はスポット受注で救われて、何とか前年並みの売上となっている状況なので、スポットがなくなるとかなり落ち込む。
		輸送業（営業担当）	・年末に向かって物量が増え、配送依頼は増える反面、燃料高のなか採算を考えて仕事をこなす協力会社が増えており、全体的には仕事量に対して車両の確保が厳しい状況にある。
		不動産業（管理担当）	・新規入居の下見などは継続的にあるが、賃料面での折り合いがつかず、なかなか成約には至らない。その上、賃貸面積縮小の話があったり、経年劣化の緊急補修で維持、修理費用が増加傾向にあり、収益面では非常に厳しい。
		その他サービス業〔放送〕（営業担当）	・自動車、電機産業が依然厳しい状況にあり、全体的に売上高は伸びていない。商業関係のイベント受注が減少していることから、10～12月の売上は前年同期比で4%程度落ち込む見通しである。
	悪くなる	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・10月から5%、年間で約10%のコストダウンを要請されている。原油高騰に伴う材料、燃料値上りをもろに被り、売上、収益面等大幅に悪化していく。
雇用関連	良くなる	求人情報誌製作会社（経営者）	・雇用が今、急激に増えている他に、12月の頭に現在110店舗あるアウトレットが新しくあと40店舗増やす。求人広告の依頼がきており、約400名の募集をかけるので、周辺エリアの活性が見込まれる。
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・このところ、親会社から人の採用を頼まれることが多くなっている。これから忙しくなる。
		人材派遣会社（経営者）	・住宅関連等の素材、原料等は、原油価格の高騰などで結構厳しいが、需要は出てくると見込んでいる。電機電子は相変わらず生産が堅調に伸びているようなので、人手不足等から求人数は結構多く出てくる。自動車関連は現人数での生産で、残業も増えてくる。
		人材派遣会社（営業担当）	・公共機関の整理統合の話は懸念材料であるが、求人数の動きが非常に活発化しているので、やや良くなる。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・学校に対する直接の求人は少ないが、企業はまだ人員が充足していないようである。内定辞退による採用活動の通年化も多くなっているようなので、期待している。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・年間契約の客がほとんどなので、今年度中はあまり変動がない。2～3か月の範囲で状況が変わるものはスポット的な細かい仕事が多いが、今のところ特段売上が伸びるような要素はない。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数は、2か月ぶりに2,000を超えたが、過去1年間は前年の11月、今年の5月を除き、前年比で減少しており、全体的に減少傾向と、明るい兆しがみられる。しかし、アメリカ南部のハリケーンが更なる原油価格高騰につながると考えられることから、主要産業の製造業を中心に影響が懸念される。

	職業安定所（職員）	・求人数の増加も背景にあり、求人を閲覧に来る求職者が増加している。新規設置の事業所のほとんどはサービス業であり、若年者やパート従業員を希望する求人が多く、中高年には依然として厳しい状況にある。
	学校〔大学〕（総務担当）	・約92%という内定率が出ている学科もあるが、業種によっては良いところと悪いところが大きく分かれている。今後、すぐに景気が大幅に改善するとは考えにくい。
やや悪くなる		
悪くなる	-	-